アマリリス〈名〉[amaryllis] 初夏、ユリに似た大きな花がさく多年草。球根でふえる。ヒガンバナ科。夏

あまる【余る】〈自動五段〉❶[多すぎて]のこる。❷[数学で]わり算をして、わりきれないでのこりが出る。限度をこえる。「勢い余って外へとびだす・身に―〈=自分のねうち以上の〉光栄・目に―暴挙」❹自分のできる程度をこえている。「手に―仕事・思案に―」

アマルガム〈名〉[amalgam] ❶水銀とほかの金属との合金。むし歯につめるのは、銀・すず・水銀の合金。❷性質のちがうものがまざりあったもの。

あまん・じる【甘んじる】〈自動上一〉それで十分だとして満足する。与えられたものをしかたなく受け入れる。甘んずる。「現状に―」類安んじる・甘受じかする ⇨あまんじる。

あまん・ずる【甘んずる】〈自動サ変〉⇨あまんじる。

あみ【網】〈名〉❶魚・鳥などをとるための道具で、糸などで編んだもの。❷針金などで編んだもの。かなあみ。❸人を捕らえるため、または、行動を制限するために、はりめぐらした手段・手配。「法の―をくぐる」

―吞舟の魚を漏らす 法律が厳しくないため、大罪を犯した人をのがしてしまう。⇨吞舟の魚 由来中国の『史記』に出てくることば。網目があみが荒いために、舟ふねをのみこむほど大きな魚を取りにがすという意味。対天網

―を張る ❶魚・鳥などをとる網をしかける。❷犯人などをつかまえる準備をして、待ちかまえる。

あみ[:]【醤蝦】〈名〉小エビに似ていて、つくだ煮などにする節足動物。アミ科。

アミ〈名〉[フス ami(男)・amie(女)] 友人。愛人。

あみあげ【編み上げ】〈名〉↑編み上げくつ。

あみあげぐつ【編み上げ靴】〈名〉足の甲こうの部分を、ひもで下から上へと、交互こうに編むようにしてしめては深めのくつ。

アミーバ〈名〉[amoeba, ameba] ⇨アメーバ。

あみがさ【編みがさ】[《編み▲笠》〈名〉] イグサ・スゲ・わらなどで編んだ、頭にかぶるかさ。夏 ⇨かさ〔笠〕 絵

あみき【編み機】〈名〉編む機械。

あみだ【阿弥▲陀】〈名〉❶[仏教で]西方浄土じょうどにいて、すべての人を救うという仏。―如来にょらい・―仏」❷[かながき]←あみだくじ。❸[かながき]←あみだかぶり。

あみだかぶり【阿弥陀被り】〈名〉(つば付きの帽子しぼうを)うしろにずらしてかぶる かぶり方。由来阿弥陀仏の光背の形から。

あみだくじ【▲阿弥陀▲籤】〈名〉人の割り当てや賞品などを決めるとき、人数分の線を縦に引いたあと、横に適当に線を引いて、それぞれが選んだ上のところから下にたどっていって決めるためのくじ。あみだ。由来もとは、当たりの入った人数分のこよりを上だけ出して手に持ったようすが、阿弥陀仏の光背のように見えたことから。

あみださえん【▲阿弥▲陀三尊】〈名〉[仏教で]中央に阿弥陀如来にょらい、その左に観世音おんぜせ菩薩ぼさつ、右に勢至しせ菩薩を配置した三体をいう。

あみだ・す【編み出す】〈他動五段〉工夫くふうして作り出す。「独特の打法を―」

あみだな【網棚】〈名〉[電車などで]荷物をのせるための、金属の棒などを張った棚。[もとは網を張っていた]

あみど【網戸】〈名〉窓の外側や戸の内側に設置する、虫よけの網を張った戸。夏

アミノさん【アミノ酸】〈名〉タンパク質をつくっている有機化合物。

あみのめ【網の目】〈名〉網の、編んだ糸と糸とのあいだ。網目。「ネットワークを―状に張りめぐらす」

あみばり【編み針】〈名〉編み物に使う、竹や金属でできた細長い棒。棒針とかぎ針。類編み棒

あみぼう【編み棒】〈名〉編み物に使う、竹などでつくった細長い棒。棒針。

あみめ【網目】〈名〉⇨あみのめ。

あみめ【編み目】〈名〉毛糸などで編んだ糸と糸の間のすきま。また、その模様。―が粗あらい」

あみもと【網元】〈名〉漁船や網をもち、多くの漁師をたばねて使う親方。網主ぬし。

あみもの【編み物】〈名〉[セーターやレース編みなどを作るために毛糸や糸などを編むこと。また、編んだもの。

あみやき【網焼き】〈名〉肉や野菜を、金網あみなどにのせて焼くこと。また、そうして焼いた料理。

アミューズメント〈名〉[amusement] 娯楽。「―センター・―パーク〈=遊園地〉」

アミラーゼ〈名〉[ドイ Amylase] でんぷんなどを消化して糖にする酵素。唾液えき・すい液などにふくまれる。ジアスターゼ。

あ・む【編む】〈他動五段〉❶糸・竹・針金などを、たがいちがいに組み合わせる。「セーターを―・かごを―」❷多くの文章や歌を集めて、本をつくる。同能編める

アムネスティ〈名〉[Amnesty=恩赦しゃ] ←アムネスティ・インターナショナル」政治犯の人権を守るための国際組織。一九六一年設立で、ロンドンに事務局がある。

あめ【天】〈名〉そら。てん。「―の下」[古い言い方]

あめ【雨】〈名〉❶空気中の水蒸気が高い所で冷えて、水滴きとなって落ちてくるもの。「―が降る・―が上がる」❷[①]の降る天気。「明日は―だ」類雨天 ❸つづけざまに降りかかってくるもの。「弾丸だんの―」⇨**ことばの世界「雨」**

―が降ろうが(と)槍やりが降ろうが(と) たとえどんな困難が起こっても、「―実行する」

―降って地に固まる 悪いことや困難なことがあったことで、かえって前よりももくなる。

あめ【▲飴】〈名〉なめたり、しゃぶったりするあまい菓子。もち米やいも、砂糖などから作る。

―とむち【鞭】[相手をうまく従わせる(・働かせる)ために]あまいことばと厳しいやり方。「―で部下を使う」

あめ【飴】〈名〉[フス ami(男)・amie(女)] 友人。愛人。

あめあげ【飴上げ】〈名〉←飴上げくつ。

あめあげぐつ【飴上げ靴】〈名〉足の甲こうの部分を、ひもで下から上へと、交互こうに編むようにしてしめては深めのくつ。

アミーバ〈名〉[amoeba, ameba] ⇨アメーバ。

あみがさ【編みがさ】[《編み▲笠》〈名〉] イグサ・スゲ・わらなどで編んだ、頭にかぶるかさ。夏 ⇨かさ〔笠〕 絵

あみき【編み機】〈名〉編む機械。

あみだ【阿弥▲陀】〈名〉❶[仏教で]西方浄土じょうどにいて、すべての人を救うという仏。―如来にょらい・―仏」❷[かながき]←あみだくじ。❸[かながき]←あみだかぶり。

あみだかぶり【阿弥陀被り】〈名〉(つば付きの帽子しぼうを)うしろにずらしてかぶる かぶり方。由来阿弥陀仏の光背の形から。

あみだくじ【▲阿弥陀▲籤】〈名〉人の割り当てや賞品などを決めるとき、人数分の線を縦に引いたあと、横に適当に線を引いて、それぞれが選んだ上のところから下にたどっていって決めるためのくじ。あみだ。由来もとは、当たりの入った人数分のこよりを上だけ出して手に持ったようすが、阿弥陀仏の光背のように見えたことから。

あみださえん【▲阿弥▲陀三尊】〈名〉[仏教で]中央に阿弥陀如来にょらい、その左に観世音おんぜせ菩薩ぼさつ、右に勢至しせ菩薩を配置した三体をいう。

あみだ・す【編み出す】〈他動五段〉工夫くふうして作り出す。「独特の打法を―」

あみだな【網棚】〈名〉[電車などで]荷物をのせるための、金属の棒などを張った棚。[もとは網を張っていた]

あみど【網戸】〈名〉窓の外側や戸の内側に設置する、虫よけの網を張った戸。夏

アミノさん【アミノ酸】〈名〉タンパク質をつくっている有機化合物。

あみのめ【網の目】〈名〉網の、編んだ糸と糸とのあいだ。網目。「ネットワークを―状に張りめぐらす」

あみばり【編み針】〈名〉編み物に使う、竹や金属でできた細長い棒。棒針とかぎ針。類編み棒

あみぼう【編み棒】〈名〉編み物に使う、竹などでつくった細長い棒。棒針。

あみめ【網目】〈名〉⇨あみのめ。

あみめ【編み目】〈名〉毛糸などで編んだ糸と糸の間のすきま。また、その模様。―が粗あらい」

あみもと【網元】〈名〉漁船や網をもち、多くの漁師をたばねて使う親方。網主ぬし。

あみもの【編み物】〈名〉[セーターやレース編みなどを作るために毛糸や糸などを編むこと。また、編んだもの。

あみやき【網焼き】〈名〉肉や野菜を、金網あみなどにのせて焼くこと。また、そうして焼いた料理。

アミューズメント〈名〉[amusement] 娯楽。「―センター・―パーク〈=遊園地〉」

アミラーゼ〈名〉[ドイ Amylase] でんぷんなどを消化して糖にする酵素。唾液えき・すい液などにふくまれる。ジアスターゼ。

あ・む【編む】〈他動五段〉❶糸・竹・針金などを、たがい

ことばの世界「雨」

いろいろな雨 ▼大雨・長雨・糠雨・小雨・糠雨・通り雨・にわか雨・天気雨・―の突っく雨・小雨・霧雨・村雨・豪雨・強雨・猛雨・驟雨・雷雨・煙雨・霧雨・酸性雨・スコール

季節の雨 ▼春雨・五月雨・梅雨・秋雨・氷雨・時雨

雨の降り方 ▼小降り・大降り・本降り・土砂ど降り・ざあざあ降り・吹っ降り・降り降り・降らず・小おやなく・沛然・車軸じくを流すように・天の底が抜けたように・バケツをひっくり返したように・降りしきる・降りつのる・降りこめる・そぼ降る・〈天気が崩れる・しぐれる・ぱらつく・やむ・上がる〉しとしと・ぽつぽつ・ぽつりぽつり・ぱらぱら・さあっと・ざあっと・ざあざあ・ひとしと

類義・関連表現 ▼狐雨の嫁入り・お湿じめり・夕立・梅雨入り・入梅・空から梅雨

慣用句・ことわざなど ▼雨が降ろうと槍やりが降ろうと・雨垂だれ石を穿うがつ/夕立は馬の背を分ける/千天の慈雨じう/晴耕雨読・五風十雨

いっぽんぢょうし【一本調子】〈名・形動〉始めから終わりまで同じ調子で、変化やおもしろみがないこと。類単調

いっぽんづり【一本釣り】〈名〉漁業・つりで、魚を一ぴきずつつり上げる方法。「かつおのー」

いっぽんどっこ【一本独▲鈷】〈名〉大組織に所属せず、独自の価値観や方針で活動する組織や個人。

いっぽんやり【一本やり】〔一本▲槍〕〈名〉どこまでもただ一つの方法で押しとおそうとすること。類一点張り・一辺倒

いつみん【逸民】〈名〉世間との交渉をさけて、気楽に暮らしている人。「太平のー」

いつも〔:何時も〕〔一〕〈副〉どんな場合でも。「ー笑顔をたやさない」類いつでも・つねに・しじゅう・たえず・四六時中〔二〕〈名〉ふだん。「ーの様子とちがう」類平生

いつらく【逸楽】〈名〉気ままになまけ楽しむこと。「ーにふける」類快楽・歓楽・悦楽・愉楽・享楽

いつわ【逸話】〈名〉［ある人物などについての］世間にあまり知られていない、ちょっとした話。「偉人のー」類エピソード・逸聞

いつわり【偽り】〈名〉いつわること。「ーを言う」類うそ対誠

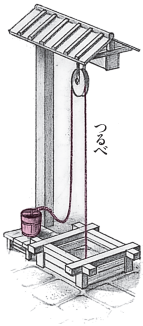
いつわ・る【偽る】〈自他動五段〉事実とちがうことを言ったりしたりする。うそを言う。「履歴をー」類ごまかす・だます・欺く可能偽れる⇩比較だます

いて【射手】〈名〉弓を射る人。また、弓の名人。

イデア〈名〉［ギリシャ idea］❶［プラトン哲学で］もの・ことの、おおもとになっている性質。筋道を立てて考えること（＝理性）によってのみ見極めることができるとした。「善のー・人間のー」❷理念。観念。イデー。

イディオム〈名〉［idiom］⇩慣用句。

【いど（井戸）】



イデー〈名〉［ドイツ Idee］［哲学で］理念。観念。

イデオロギー〈名〉［ドイツ Ideologie］個人や集団の行動のもとになる、政治上の基本的な考え。「ーの対立・ーにとらわれない」

いてき【▲夷▲狄】〈名〉未開の人。外国人。［見下した言い方］由来昔、中国で、東方の民族を「夷」、北方のそれを「狄」と呼んだことから。類野蛮人・夷

いでたち〔△出で立ち〕〈名〉特別の装束。「りりしいー」類身なり

比較〔いでたち〕特別なときの大げさな身じたくをいう。もと、旅行や出陣のときに使った古風な言い方。「ものものしいー」

〔身なり〕広く服装をいう。「ーを気にしない」

いてつ・く〔△凍て付く〕〈自動五段〉こおりつく。「いてついた道」

いても-たっても-いられない【居ても立ってもいられない】⇩いる（居る）。

いでゆ【いで湯】〔△出で湯・:温泉〕〈名〉温泉。「山のー」［古風な言い方］

い・てる〔△凍てる〕〈自動下一〉こおる。「いてた地面」

い・でる【△出でる】〈自動下一〉古語の動詞「いづ」の誤った終止形・連体形。

いてん【移転】〈名・自他動サ変〉住居などをほかにうつすこと。また、うつること。「ー通知・営業所がーする」類引っ越し・転居・転宅・移住

いでん【遺伝】〈名・自動サ変〉親の体質や性質の特色が子や孫に伝わること。「ー情報・ー体質・隔世ー」

いでんし【遺伝子】〈名〉遺伝をつかさどる物質。その本体は「DNA（デオキシリボ核酸）」で、染色体の中にある。「ー工学・ー治療」⇩DNA①

いでんしくみかえ【遺伝子組（み）換え】〈名〉遺伝子を人工的に組みかえて、遺伝上、別の生物を作り出すこと。

いでんしこうがく【遺伝子工学】〈名〉遺伝子組み換えなど、遺伝子を人工的に操作する技術・学問。

いでんしちりょう【遺伝子治療】〈名〉患者のからだの細胞の中に、外から遺伝子を導入して治療すること。

いと【糸】〈名〉❶動植物の毛・繊維や人造繊維を、細長く引きのばして、よりをかけたもの。「ーをつむぐ・ーを針に通す」⇩比較ひも❷琴・三味線などの弦。また、琴や三味線。❸つり糸。❹細くて長い線の形をしたもの。「クモのー・納豆のー」

ーを垂れる つりをする。「川べりにー」

ーを引く ❶ねばって、糸のように細く長くなる。「よだれがー・納豆がー」❷かげにいて、いろいろさしずする。あやつる。「背後でー」

いと【意図】〈名・自他動サ変〉こうしようと思う考え。「発言のーが不明だ」類企図・もくろみ・おもわく・ねらい・意向

いど【井戸】〈名〉地面を深く掘って、地下水をくみあげるようにしたしかけ。絵

いど【異土】〈名〉❶異郷。❷異国。外国。

いど【緯度】〈名〉地球上のある地点が赤道から南または北にどの程度離れているかを示す度合い。赤道を〇度とし、南極・北極を九〇度とする。［赤道から南が「南緯」、北が「北緯」となる］対経度

いとあやつり【糸操り】〈名〉人形の各部分に糸をつけ、その糸を、客席から見えない高い所からあやつって、人形を動かすしかけ。

いとう【以東】〈名〉その地点をふくめて、そこから東。「名古屋ー」用法ふつう、地名の下につけて使う。対以西

いと・う〔▲厭う〕〈他動五段〉❶いやがる。「世をー・面倒をー」類きらう❷いたわる。たいせつにする。「我が身をー・お体おいとい下さい」▼［古風な言い方］

いどう【異同】〈名〉異なる点。ちがい。「前年度とのーを調べる」類差異・相違

←**いどう**【移動】〈名・自他動サ変〉場所が変わること。また、変えること。「人口がーする・ゲルマン民族の大ー」類移転・移る

→**いどう**【異動】〈名・自動サ変〉❶会社などの組織の中で、地位や所属などが変わること。「人事ー」❷役所の手続きで、住所や本籍地などが変わること。「住民ー」

いとう さちお【伊藤左千夫】人名（一八六四―一九一三）歌人・小説家。千葉県生まれ。本名、幸次郎。正岡子規に師事。子規没後、根岸短歌会を導き、雑誌『馬酔木』『アララギ』を創刊。感動の直接表現である「叫び」の説を唱えた。歌風は、万葉調で荘重。歌集『左千夫歌集』、小説『野菊の墓』など。

【 】は標準的表記　〔 〕は参考表記　▲は常用漢字でない漢字　△は常用漢字表に定められていない音訓

は ハ

は【把】7画 一 扌 扌 扌 扌 把

音 ハ(中) 訓 —［⇨わ(把)］

一〈字〉つかむ。にぎる。◉把握はあく

二〈接尾〉たばねたものをかぞえることば。「一一わ・三一ばと・十一ばと」

は【波】8画 氵 氵 氵 氵 波 波

音 ハ(小3) 訓 なみ(小3)

〈字〉❶水面におこる、なみ。◉波浪ろう・波紋もん/風波ふう・余波よは・防波堤ぼうはてい ❷なみに似たもの。◉波長ちょう・波状じょう・電波でんぱ・寒波かんぱ・周波数しゅうはすう ❸影響きょうがったわりひろがる。◉波及はきゅう ❹度もくり返す攻撃などをかぞえることば。「第二一のストをうつ」

は【派】9画 氵 氵 氵 氵 派 派

音 ハ(小6) 訓 —

一〈字〉❶わかれる。わかれたもの。◉派生はせい/分派ぶんぱ・流派りゅうは/党派とうは・硬派こうは・宗派しゅうは ❷他とわかれてできた、同じ考えをもつ集団。◉派閥はつ/派兵へいは・特派員とくはいん ❸行かせる。◉派遣けん・派出はしゅつ

二〈名〉［宗教・政党などの中で］いくつかに分かれてできた集団の一つ一つ。「同じ一に属する」

は【破】10画 石 石 矿 矿 破 破

音 ハ(小5) 訓 やぶ・る・やぶ・れる(小5)

❶こわす。こわれる。◉破壊かい・破損そん・破片へん/打破だは・爆破ばく・大破はい・難破なん ❷ものごとがだめになる。◉破産さん・破局きょく・破滅めつ・破談だん・破約やく ❸相手を負かす。◉論破ぶん・撃破げき ❹しとげる。やりぬく。◉踏破とう・読破どく・突破とつ ❺きまりやわくからはずれる。◉破戒かい・破格かく

は【覇(霸)】19画 一 冂 冂 冂 冂 覇 覇

音 ハ(中) 訓 —

一〈字〉武力で天下を取ること。また、競技などで優勝すること。◉覇者しゃ・覇権けん/制覇せい

二〈名〉❶武力などで、天下を取ること。「一をとなえる」 ❷優勝すること。「一を競きそう」

は【刃】〈名〉刃物はものの、物を切る部分。「するどくてうすい。一包丁の一がこぼれる・一をとぐ」類やいば

は【羽】〈名〉❶鳥・虫のはね。❷羽毛もう。

は【葉】〈名〉枝・茎くきから出て、呼吸をし、養分をつくるはたらきをするもの。多くは、緑色でうすくて平たい。「一を落とす・一が散る・木この一」類葉っぱ

は【歯】〈名〉❶脊椎動物の口の中に、上下にならんで生える、白くかたいもの。食物をかみくだき、また、発音を助ける。「一にしみる・一を食いしばる」 ❷［器具・機械などのふちにある］歯の形に似たこまかいきざみ。「のこぎりの一・歯車の一」 ❸下駄げたのうらの土をふむ二枚の木片もくへん

―が浮く ❶歯の根が浮きあがるように感じる。❷言うことやすることが、いかにも見えすいていて、いやな気がする。「一ようなおせじ」

―が立たない ❶かたくてかめない。❷とてもかなわない。「実力に差があって一」 ❸とてもむずかしい。

―に衣着せない 思っていることをずけずけ言う。「一意見」

―の抜けたよう まばらになったようす。

―の根が合わない ［寒さやおそろしさなどのため］歯がかちがちからだがふるえる。

―を食いしばる ［歯をしっかりかみしめて］くやしさ・怒いかり・苦しさなどをこらえる。

―を見せる ［歯が見えるほど］口を少し開けて笑う。

は【端】〈名〉の略。「山の一」「古い言い方」

は【感】〈感〉❶かしこまって受け答えするときのことば。「一、かしこまりました」 ❷何ですかと聞き返す意味をあらわすことば。「一、もう一度おっしゃってください」「しり上がりにいう」

は【副】［発音は、「わ」］❶述べることの題目を示す。また、「…については」のような意味をあらわす。「雨一やみました・幸福一おかねでは買えない」⇨比較が ❷ある部分を取り上げて強める。「人に一話せない」 ❸とくに二つのことからを対比するときに使う。「暑さに一強いが、寒さに一弱い」 ❹そのことだけはたしかだという気持ちをあらわす。「あるに一ある」 ❺ある部分について否定するときに使う。「月末までに一できません」 ❻「…したら」「…したのでは」の意味をあらわす。「そうなってしまって一もうおそい」 ❼「…のたびごとに」の意味をあらわす。「ときどき来て一話しこんでいく」 ❽広い地域の中の一定の場所を示すときに使う。「東京一神田かんだの生まれ」

ば【馬】10画 一 厂 厂 厂 馬 馬

音 バ(小2) 訓 うま(小2)

〈動物〉のウマ。◉馬車しゃ・馬耳東風とうふう・馬子こ/乗馬じょう・競馬けい・名馬めい・絵馬えま

ば【婆】11画 氵 氵 氵 氵 婆 婆

音 バ(中) 訓 —

年とった女の人。◉老婆ろう・産婆さんば役やく

ば【罵】15画 冂 罒 罒 罒 罵 罵

音 バ(中) 訓 ののしる(中)

大声でのの・しる(中)。

ば【場】〈名〉❶「ものを置く」場所。いどころ。「一をふさぐ・一(=席)を取る」 ❷ところ。とき。「話し合いの一・一をもたせる・一を閉じる(=終わりにする)」 ❸劇で」一幕のなかの一つのくぎり。「第一幕第一」類段

ば【接助】❶仮定の順接の関係を示す。…なら。「もし雨がやまなければ一、中止しよう」 ❷ある条件のもとでは、いつもあることからの起こる関係を示す。「秋になれば一、紅葉する」 ❸並列れつの意味をあらわす。「野球もやれ一、テニスもする」 ❹前置きや話題を述べるのに用いる。「村田といえ一、このごろどうしているかな」 ❺［…一…ほど］の形で］…すると。「読むほど一おもしろい」 ❻…してはどうか、の気持ちをあらわす。「きみが行け一ー?」 ❼［文語文法で］㋐未然形に付いて⇨①。「かれ行かけれ一、我も行かん」 ㋑［已然形に付いて］⇨②。「命長ければ、恥は多し」 ㋒［已然形に付いて］原因・理由をあらわす。…ので。「京には見えぬ鳥なれ一、みな人知らず」

はあ【感】❶受け答えするときのことば。「一、わたしも心配しています」「しり下がりにいう」 ❷感動の気持ちをあらわすことば。「一、こんなことがあったんですか」「一、そうか」「平らにいう」 ❸聞き返す意味をあらわすことば。「一、なんでございますか」「しり上がりにいう」 ❹なにかを理解できた気持ちなどをあらわすことば。「一、そうか」「平らにいう」

ばあ【婆】〈名〉「ばば」の変化。「おー さん」

ばさし【馬刺し】〈名〉馬肉のさしみ。

ばさつ・く〈自動五段〉水分やあぶらけが少なくなって、ぱさぱさする。「こはんが—・髪が—」

はざま『△狭間・△迫間』〈名〉❶せまいすきま。「雲の—から太陽がのぞく」❷谷間。❸城壁につくった、矢・鉄砲を打つ穴。

はさま・る【挟まる】〈自動五段〉❶はさんだ状態になる。すきまにはいる。「歯に—」❷対立する二つのもの（人）の間に立つ。「二つの大国に挟まった国」

←**はさみ**『▲鋏』〈名〉❶紙・布などを切る道具。❷切符などに穴をあける道具。類パンチ ❸［じゃんけんで］ちょき。関連—かみ・いし

—を入れる ❶はさみで切りとる。❷テープカットを行う。

→**はさみ**『▲蟹』〈名〉カニ・エビなどの、物をはさむつめ。

はさみうち【挟み撃ち】〈名・他動サ変〉敵を中にして両方からせめること。類挟撃

はさみしょうぎ【挟み将棋】〈名〉将棋盤で、相手のこまを前後左右からはさんで取る遊び。

はさみばこ【挟み箱】〈名〉むかし、服・道具類を入れ、棒を通して供の者にかつがせた箱。

←**はさ・む**【挟む】〈他動五段〉❶物と物との間に置く。「テーブルを挟んで向かい合う」❷間に入れて両がわからもつ。「はしで—」❸両がわから強くおさえる。「ドアに手を挟まれる」❹途中で口出しをする。「よけいな口を—な」❺ちょっと聞く。「うわさを小耳に—」可能挟める

→**はさ・む**【▲鋏む】〈他動五段〉はさみで切る。「枝を—」可能はさめる

ばさらがみ【ばさら髪】『婆▲娑羅髪』〈名〉結ばずに、ばらばらに乱した髪。

はさわり【歯触り】〈名〉かみ切るときの、歯に受ける感じ。「—のいいくだもの」

はさん【破産】Ⅰ〈名・自動サ変〉財産をすっかりなくすこと。類倒産 Ⅱ〈名〉借金をした人が返せなくなったとき、全部の財産をさし出させて、貸した人々に公平に返させるようにする、裁判上の手続き。「—宣告を受ける・自己破産」

比較 破産Ⅰ 多く、個人や家庭についていう。「事業に失敗し家は—した・自己—」

倒産 会社・商店などについていう。「不況のため—した企業」

はし【箸】15画 ⺮ 笁 筯 筯 筯 箸

音— 訓はし（中） 注意十一画めの点を省略して、「箸」（＝14画）とも書く。〈名〉食べ物をはさむ二本の細い棒の形の道具。「—をつける（＝食べはじめる）・—を置く（＝食べ終わる）・—袋」比較ていねいに言うときは「おはし」。料理屋などで、改まって言うときは「お手元」。

—が進む おいしくて、たくさん食べられる。類食が進む

—にも棒にもかからない どうやってみてもだめで、もてあます。

—の上下ろし ほんのちょっとした動作。「—にも気をつかう・—にもとやかく言う」

はし【端】〈名〉❶中心からもっともはなれた部分。「もの—・道路の—による」類末端・はた・へり ❷続いているものごとのはじめ（・終わり）。「本の—から—まで読む・—からたづける」❸ものごとのわずかな一部分。「ことばの—をとらえる」❹切りはなした小さな部分。きれはし。「木の—」❺「…する—から」の形で…したものを間をおかずに次々に。「おかねをもらう—から使ってしまう」

はし【橋】〈名〉川や道路の両側にかけて、人や車が通れるようにしたもの。「—をかける・—をわたる」絵

—を渡す ❶川などに橋をかける。❷二つのものごとの間に関係をつける。仲立ちをする。

はじ【恥】『△辱』〈名〉❶あやまちや失敗をおかして、世間に対する面目・名誉などを失うこと。「—をかく・—をしのんでたのむ・そんなことをするとは男の—だ」類恥辱 ❷名折れ・不名誉 ❸「そのおこないを」はずかしいと思うこと。はじること。

—の上塗り 恥をかいたうえに、さらに恥をかきねること。

—も外聞もない はずかしいとか、人からどう見えるかとかを気にしている余裕がない。

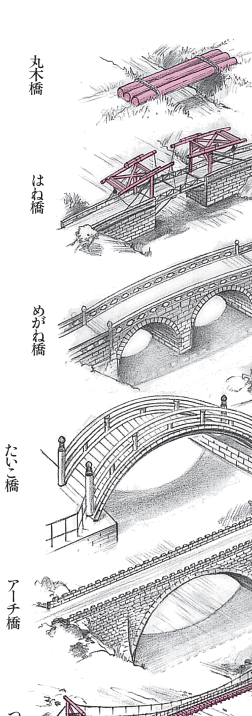
—をさらす 自分のみっともなさをおおぜいの人に知られてしまう。

—を知る はずかしいことだと思う。「恥を知れ」

—をすすぐ 失った名誉をとりもどす。恥をそそぐ。類雪辱

はじ『△端』〈名〉「はし（端）」のなまり。

はしい【端居】〈名・自動サ変〉縁側など、家のはしのほうにいること。夏



【はし（橋）】

はなし【話】〈名〉❶話すこと。また、その内容。「一のうまい人」類談話 ❷ものがたり。「大むかしの一」 ❸うわさ。「見たという一だ」 ❹ものごとの道理(・わけ)。「一のわかる人」 ❺相談。「一に乗ろう・ちょっと一がある」 ❻口で言うだけのことから。「ただの一にすぎない」 ❼『▲噺・▲咄』落語。

◉【話】**一話**(しばな)

浮き世一　打ち明け一　内輪一　裏一
うわさ一　おとぎ一　落とし一　思い出一
楽屋一　小一　こそこそ一　こぼれ一
世間一　高一　立ち一　たとえ一
茶飲み一　作り一　ないしょ一　長一
人情一　ばか一　ひそそ一　一口一
身の上一　みやげ一　むだ一
夜一　よもやま一　別れ一　笑い一

一が合う 気質や考え方がしっくりと調和し、心安く話せる。

一が落ちる ❶話の内容が下品になる。 ❷話に「落ち④」がつく。

一がかみ合わない 話や意見のやりとりがしっくりいかない。

一がつく 相談や交渉がまとまる。

一がはずむ 興味のある話題で、会話が調子よく続く。

一にならない ❶問題にならない。 ❷あきれてものも言えない。

一に花が咲く 話題がつきず、いろいろな話がつぎつぎに出る。話が調子よくはずむ。

一に実が入る 話に熱中する。

一の腰を折る 話の途中で横から口を出し、話を続かなくする。

一をつける 相談や交渉をまとまらせる。

ぱなし【ばなし・放し】〈接尾〉「動詞の連用形＋つ」のあとに付いて、名詞をつくる。 ❶…したままであること。「水の出しっ一」 ❷…し続けていること。「勝ちっ一の七連勝」

はなしあい【話し合い】〈名〉話し合うこと。「一で決める・一を重んじる」

はなしあう【話し合う】〈自動五段〉❶いっしょに話す。 ❷相談する。「会の進め方について一」類談合する 可能話し合える

はなしか【はなし家】『▲噺家・▲咄家』〈名〉落語を職業とする人。類落語家

はなしがい【放し飼い】〈名〉家畜などをつながないで、放して飼うこと。「一にする」類放牧

はなしかける【話しかける・話し掛ける】〈自動下一〉❶相手に話をしかける。 ❷話し始める。

はなしかた【話し方】〈名〉❶話のしかた。話の技術。 ❷話しぶり。口調。

はなしかわって【話変わって】〈連語〉話題が別のことになるが。類ところで

はなしごえ【話し声】〈名〉話をする声。「一がする」

はなしことば【話し言葉】〈名〉口で話すときに使うことば。類音声言語・口頭語 対書き言葉・文章語

はなしこむ【話し込む】〈自動五段〉話に夢中になる。

はなして【話し手】〈名〉話をする(側の)人。類話者・語り手 対聞き手

はなしはんぶん【話半分】〈名〉その話の半分くらいしか事実ではないこと。「一としても、たいしたものだ」

はなしぶり【話しぶり・話し振り】〈名〉話をするときのようす。話のしかた。類話し方・口調

はなしようぶ【花▲菖▲蒲】〈名〉水辺などにはえる多年草。葉は、細長くつるぎのようにとがっていて、たてのすじがある。初夏、むらさき・白などの花をひらく。アヤメ科。夏

はなじる【鼻汁】〈名〉鼻の穴から出る液。はなしる。

はなじろ・む【鼻白む】〈自動五段〉❶気おくれした顔つきをする。 ❷興ざめする。類白しらける

はな・す【放す】〈他動五段〉❶つかまえていた動物・人などを自由にする。「野鳥を一」類解放する・にがす ❷何かをつかんでいるのをやめる。「つなを一」可能放せる

はな・す【離す】〈他動五段〉❶くっついているものを分ける。「手を一」 ❷間をあける。「二メートル一」 ❸注意をそらす。「話す一」〈他のものに目を移す〉「可能離せる

はな・す【話す】〈他動五段〉❶ことばで、気持ち・ことがらなどを相手に伝える。「英語で一・手話で一・わけをくわしく一」類述べる・語る・言う・しゃべる ❷おたがいに意見などを出し合う。「話してもだめだ・話せばわかる」類話し合う 可能話せる

はなすじ【鼻筋】〈名〉眉間から鼻さきまでの線。「一が通る」類鼻柱・鼻梁

はなすすき【花すすき】『花ス薄』〈名〉穂の出たススキ。秋

はなずもう【花相撲】〈名〉臨時に興行する相撲。

はな・せる【話せる】〈自動下一〉❶話がよくわかり、こちらの気持ちを理解してくれる。「一人だ」 ❷話すことができる。

はなぞの【花園】〈名〉草花がたくさん植えられている、ひとくぎりの場所。類花畑・花壇

はなたかだか【鼻高高・鼻高々】〈形動〉非常に得意になるようす。優勝して一だ」

はなたけ【鼻たけ】『鼻▲茸』〈名〉鼻の穴にできる、一種のはれもの。

はなたて【花立て】〈名〉❶花をさすためのうつわ。花生け・より花入れ・花筒・花器 ❷仏壇や、墓の前に置く、花をさす筒。

はなたば【花束】〈名〉草花をたばねたもの。「一贈呈

はなだゲーケ 類プーケ

はなだより【花便り】〈名〉花、とくに桜の咲いたようすを知らせるたより。「各地の一」春 類花信

はなたらし【▲洟垂らし】〈名〉はなたれ。

はなたれ【▲洟垂れ】〈名〉❶はなじるをたらしていること。「一小僧」 ❷若い人や経験の少ない人をばかにして言うことば。▼はなたらし。

はなぢ【鼻血】〈名〉鼻の穴から出る血。

一も出ない すっかりしぼり取られ、もう何も出ない。

はな・つ【放つ】〈他動五段〉❶放して自由にする。「虎ランを一」 ❷「矢・弾などを」とばす。「矢を一・ホームを野に一」 ❸出す。「光を一・かおりを一」 ❹あらわす。「異彩いを一」 ❺送り出す。「スパイを一」 ❻「火を」つける。「火を一」 ❼言いふらす。「流言を一」可能放てる

比較 『話す』『語る』まとまった内容を、ある程度の長いことばで伝える。「話す」は、話しことばの場合だけ。「不安な思いを一」

『言う』まとまった内容でなく、ほんの一言言うときや、書き言葉の場合にも使う。「あっと一間・筆者の一ところ」

『しゃべる』軽い内容を気安く話す。話し言葉の場合だけ。「うっかり一なよ」

C c

C ❶3番目(のクラス)。「一組」❷音名。ハ調のド。❸[←carbon] 炭素の元素記号。 ❹[←Celsius] セ氏温度計の温度の記号。⇨F④ ❺[ローマ数字で] 100。

c [←フラ centi] [単位の] センチ。

¢ [cent] セント。アメリカなどの通貨の単位。

© ⇨まるシー。

CA [←cabin attendant] [飛行機の] 客室乗務員。キャビン アテンダント。FA。

Ca [←calcium] カルシウムの元素記号。

CAD [←computer-aided design] 建築に使う，コンピューターによる製図システム。キャド。⇨CAM

CAI ⇨シーエーアイ。

cal [←フラ calorie] カロリー。熱量の単位。

CAM(キャム) [← computer-aided manufacturing] 建築に使う，コンピューターによる裁断システム。⇨CAD

C&W [←country and western] [音楽の] カントリー アンド ウエスタン。

CAP [←child assault prevention] 子どもへの暴力防止(のためのプログラム)。

car [←carat] カラット。宝石の重さの単位。ct。

CAS ❶[←Court of Arbitration for Sport] スポーツ仲裁裁判所。 ❷[←cells alive system] 魚介類などの細胞を壊さずに急速冷凍する技術。 ❸[←conditional access system] ⇨B-CASカード。

CATV ⇨ケーブルテレビ。

CBS [もとColumbia Broadcasting System] アメリカの3大テレビ ネットワークの一つ。⇨ABC・NBC

CBT ❶[computer-based testing] パソコン画面で解答する試験形式。 ❷[computer-based training] パソコンを利用した学習(システム)。

CC [←country club] カントリー クラブ。

cc ⇨シーシー。

CCD [←charge coupled device] 電荷結合素子。光を電気信号に変えて画像化する。デジタルカメラなどに利用。「一カメラ」

CCS [←carbon capture and storage] 二酸化炭素地下貯留技術。

CCTV ❶[←China Central Television] 中国中央テレビ。 ❷[←closed-circuit television] 防犯カメラ(のモニター)。

CCU [←coronary care unit] 心疾患集中治療室。

CCW [←Convention on Certain Conventional Weapons] 特定通常兵器使用禁止・制限条約。

CD ⇨シーディー。

cd [←candela] カンデラ。光度の単位。

CDM [←clean development mechanism] クリーン開発メカニズム。先進国が発展途上国の(・大企業が中小企業の)二酸化炭素排出削減を支援し，自分の削減分にあてる。

CD-R ⇨シーディーアール。

CD-ROM ⇨シーディーロム。

CEFR(セファール) ⇨セファール。

CEO ⇨シーイーオー。

CERN(サーン) [←フラ Conseil européen pour la recherche nucléaire] ヨーロッパ合同原子核研究機関。

CF ⇨シーエフ。

cf. ⇨シーエフ。

CFC [←chlorofluorocarbon] クロロ フルオロ カーボン。一般的なフロン。

CFO [← chief financial officer] [企業の] 最高財務責任者。

CFRP [←carbon fiber reinforced plastic] 炭素繊維強化プラスチック。

CG ⇨コンピュータ(ー)グラフィックス。

CGI ❶[←computer-generated imagery] コンピューターで作られた(CGと実写との合成による)映像。 ❷[←common gateway interface] ホームページの中で利用できるプログラム。コメント送信のためのプログラムなど。

CGS単位系 ⇨シージーエスたんいけい。

CI ❶⇨シーアイ。 ❷[←composit index] 主要な指標の前月比を合成した景気動向指数。⇨DI

CIA ⇨シーアイエー。

CIE [←Civil Information and Education Section] 民間情報教育局。第二次世界大戦後，GHQに置かれた。

CIO [←chief information officer] [企業の] 最高情報責任者。

CIQ [← customs, immigration and quarantine] 税関・出入国管理・検疫。出入国手続き。

CIS [← Common-wealth of Independent States] 独立国家共同体。ロシアなど，旧ソ連の12か国が組織。

CITES(サイテス) [← Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora] 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約。ワシントン条約。

CK [←corner kick] [サッカーの] コーナー キック。

CL [←Champions League] チャンピオンズ リーグ。ヨーロッパのサッカー大会。

Cl [←chlorine] 塩素の元素記号。

cl [←clarinet] [音楽で] クラリネット(のパート)。

CM ⇨コマーシャル。

cm [←フラ centimètre] [単位の] センチ メートル。

CMYK [← cyan, magenta, yellow, and key black] シアン(=水色)・マゼンタ(=濃いピンク色)・黄色・黒。印刷に使う四つの基本色。⇨RGB

CNG ⇨シーエヌジー。

CNN [←Cable News Network] ニュース専門のアメリカのケーブル テレビ局。

CO ⇨シーオー。